

漁業者が主役の「2大イベント」

7月13日、『てつぐい海鮮まつり』が汐吹漁港において開催されました。この取組は販路拡大等を目的に、漁業関係者が中心となつて企画しているもので、当日はあいにくの天候により、漁港荷捌き場の屋内開催となりましたが、新鮮な魚介類が浜値で販売されるとあって、会場内は溢れんばかりの人で大盛況でした。

また、スーパーよりも地場産魚介類が格安で販売されたほか、ヒラメのフライやかまぼこ、ゴジラエビの汁を取った味噌汁など、浜の母さんの手作り料理も大好評だったほか、メインイベントの特典のついでに解体ショーでは、地元漁業者の見事な包丁捌きでみるうちに部位ごとに分けられ、『浜』ならではの迫力ある催しとなりました。



夏の到来を告げる文月祭

7月14日、上ノ国町観光協会主催による『文月祭』が道の駅もんじゅ前にて行われ、多数の来場者で賑わいました。前日の雨模様とはうって変わって、少し風が強い晴天ながらも、会場では町内外から多数の出店が立ち並び、その隣のレストスペースには焼き台が設置され、自由にバーベキューが楽しめるようになっていました。

来場者は、店頭に所狭しと並ぶ夏の魚介類、夏野菜など思い思いの食材を買い求め、上ノ国の特産品によるオリジナルのバーベキューを楽しんでいる様子でした。



ヒラメ大漁、例年凌ぐ

6月下旬から7月中旬にかけて、ヒラメの定置網漁が好調に推移し、例年の漁獲量を上回る大漁となりました。

ヒラメは、海の特産品として、『てつぐい』と呼ばれる親しまれている魚、刺身や寿司ネタに用いられる高級食材であり、平物と呼ばれるヒラメ、カレイ類の中では最も高値で取引され、一本釣り、延縄、定置網、底曳き網、刺し網など漁獲されています。

その中でも本町の漁法は定置網漁が主流で、汐吹漁港などでは朝早くから、設置された定置網に向けて漁船が一齐に出港していく光景が頻繁に見られました。

近年はイカなど不漁が続く、漁業はいいニュースに恵まれていませんでしたが、久しぶりの明るい話題に、漁港は活気にあふれ、地元漁師の方々の笑顔が見られたことから、今後他の魚種でも好漁となることを期待しています。



飲酒運転の撲滅に向けて

7月12日、ビールなどアルコールの消費量が増える季節を前に、飲酒運転撲滅を目的としたキャンペーンイベントが、ジョイじよぐらにて執り行われました。

飲酒運転は、全国的にも摘発数が年々減少を続けていますが、毎年痛ましい事故のニュースが必ずテレビや新聞などで報道されています。

本町は交通死亡事故ゼロ連続4000日に向けて、あと76日(8月1日時点)と迫っており、これはひとえにまちのドライバー一人ひとりが運転に気を付けるとともに、歩行者等も交通ルールを意識してきたことの積み重ねだと思います。

町内で、痛ましい事故が起きないように、これからも町民一丸となつて、交通ルールを守り、この記録を一日でも伸ばすよう頑張ります。

